



# わかやま

No.76

和歌山県精神保健福祉センター

2018年8月

一般社団法人 和歌山ダルク  
代表理事 島田 ゆか

## 「ロイズホームを開設して」

はじめまして。一般社団法人和歌山ダルク代表理事の島田ゆかです。

和歌山ダルクは、2005年に活動を開始し、2016年3月に法人化されました。ダルクとは、薬物依存症（アディクション）からの回復支援施設です。当法人は、2016年6月に「ロイズホーム」という母子で利用できる入寮施設を開設しました。

薬物依存症からの回復には、ともに回復を続ける「仲間」の存在が必要です。ダルクでは、薬物をやめて新しい生き方をしていこうとする「仲間」との自助的な関わりの中で回復プログラムを実践していきます。長く薬を止めている仲間のことを「先行く仲間」と呼び、新しくつながった仲間は、日々の生活の中で先行く仲間から回復を手渡してもらいます。先行く仲間と呼ばれるメンバーも、今困っている仲間の手助けをする中で、自分自身の回復を続けていくことができます。これは、NA（ナルコティクス・アノニマス、薬物依存症からの回復のための自助グループ）の原理と同様です。

2018年現在、全国におよそ100ヶ所のダルクがあります。各ダルクは、それぞれ独立した法人ですが、横のつながりがあり連携して活動しています。その中で、女性が入寮できる施設は少なく、女性の居場所を作りたいと思いました。また、子育て中のアディクトが子どもと一緒に回復できないのか、とも考えました。自身のアディクション問題で困っているものの、養育能力はある母親、母子関係が破綻していない親子。そんなケースに出会う度、「母子で入寮できれば回復の可能性はぐっと広がるのに」と感じていました。そこで、前代表の和高ささんと一緒に「ロイズホーム」を立ち上げることにしました。

母子での受け入れを開始し、2年が経ちました。現在、単身女性数名と1組の母子が入寮し、生活しています。母親が回復していくにつれ、子どもの様子もぐんぐん変わっていきます。年齢相応の発達もあれば、これまで芽をひそめていた情緒的な発達もあります。どの大人にもなつく「イイコ」だった幼児が、大きな声で笑ってワガママを言い母親に甘えるようになった姿。「ママがいい！」と愛着を示す姿。一つ一つの行動の変化に胸をうたれます。アディクション問題で母親になりきれなかった女性が、仲間の中で悩み苦しみながら母親になっていく姿。母子での回復は可能なんだ、と確信を得ています。

ここで回復したメンバーが、今後、薬物問題で困っている「仲間」を手助けできる人材に育ってほしいな、と思います。薬物依存症からの回復資源が少ないといわれている和歌山県で、回復を手渡せる「先行く仲間」として活躍する日を夢見て活動を続けています。



- もくじ
- P1 「ロイズホームを開設して」
  - P2 シリーズセンター長だより／和歌山心のフェスタ2017／ほっとする笑顔つながるこころの絵
  - P3 ソフトバレーボール和歌山県大会／和歌山メンタルニュース
  - P4 和歌山メンタルニュース／自殺予防週間
  - P5 【特集】DPATの活動について
  - P6 はーとふるねっとわーく／編集後記

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193



## クマ出没注意！

今年の夏、北海道の利尻島は大きな2つのニュースがありました。ひとつは8月4日に天皇皇后両陛下が在位中最後の離島訪問として島を視察されたことでした。もうひとつは5月30日に106年ぶりにヒグマが確認されたことでした。対岸の稚内から20キロ以上泳いで渡ってきたらしく、島はにわかクマ警戒モードになりました。おりしも4日後の6月3日に利尻島を一周する53.7キロのマラソン大会が予定されていたこともあり、全国ニュースでもクマ騒動が報道されて話題になりました。和歌山県民としては、遠い北海道の離島のクマ騒動はまったく関係ない話ですが、実はこっそりこのマラソン大会にエントリーしていた私は、利尻島に向かう飛行機を待っていた新千歳空港でこのニュースを聞いて「やばい」と焦っていました。結果的には、地元関係者の「英断」で予定どおり開催され、561人が出走して508人が完走を果たしました。

このマラソン大会には、地元の利尻高校の生徒たちが「ふるさと教育」として、全島一周か14.1キロのどちらかを選んで参加していて、今年は全島一周に47人がチャレンジして29人が完走しました。50キロ以上を歩く強歩大会は各地の高校で今も残っているのを知っていますが、高校の行事としてフルマラソンよりも長い53.7キロを「走る」のは聞いたことがありません。東京マラソンをはじめ、日本で開催されているフルマラソンは高校生の出場を認めていないので、ほんとうにびっくりです。クマ騒動の中でのマラソン大会強行以上に、先生たちも走ったことがない距離を生徒に走らせる学校の「英断」にびっくりでした。生徒たちにとって53.7キロは感動だったのかトラウマだったのか、いつか機会があればきいてみたいと思います。ちなみに、全島一周を完走した生徒のうち、私よりも速かったのは1人だけでした（タイムは内緒にしておきます）。



## 和歌山こころのフェスタ 2018



日時 平成30年11月24日(土)  
13:00~13:40

会場 和歌山ビッグホエール メインステージ

### ■グループ活動紹介

内容 ・(社福)一麦会就労支援B型事業所  
Po-zkk(ポズック)楽団

### ■表彰式

和歌山県精神保健福祉協会表彰式

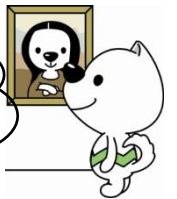
「ほっとする笑顔つながるこころの絵」表彰式

### ■精神保健福祉センター展示ブース

「ほっとする 笑顔つながるこころの絵」

入賞作品展示(時間 10:00~16:00)

## 「ほっとする笑顔つながる こころの絵」大募集！！



和歌山県精神保健福祉協会は、人がほっとしたり笑顔になるような絵を大募集します。

### 1 募集内容

- (1) 対象者 和歌山県内に在住、または通勤・通学している方であれば誰でも応募できます。
- (2) 規格 ①見る人の心をあたためる絵であれば内容は自由②応募は自作で未発表の作品お一人一点まで③応募作品サイズは(最小)はがき大~(最大)画用紙四つ切り大



# 第15回精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会ボランティア募集！！

精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会は、精神障害のある人がスポーツを楽しみ、体力の維持・増進を図り、仲間とのふれあいを体験することによって、社会の障害者に対する理解をより一層深め、精神障害者の社会参加を促進することを目的として開催しています。この大会のお手伝いしていただけるボランティアを募集します。

主催 和歌山県精神保健福祉協会

共催 和歌山県作業療法士会

日時 平成30年11月14日（水）  
10:00～17:00

場所 和歌山ビッグウエーブ

選手 精神障害者保健福祉手帳の所持者  
もしくはそれと同等の精神障害を  
有する者

保険 主催者においてスポーツ傷害保険に加入  
します

ボランティア内容 試合の得点係など

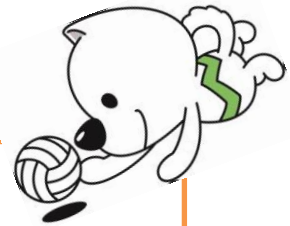
その他 昼食及びお茶をご用意します。

申し込み締め切り 平成30年9月21日（金）

お申し込み・お問い合わせ先 和歌山県精神保健福祉協会

〒640-8319 和歌山市手平 2-1-2 和歌山ビッグ愛 2階

精神保健福祉センター内 電話 073-435-5194 FAX 073-435-5193



## 開催案内

## 和歌山メンタルヘルスニュース

### 【アルコール健康障害 研修会】

演題 『アルコールのこと、知っていますか？』  
～アルコールの身体と脳とところへの影響～

講師 波床将材 氏

（京都市こころの健康増進センター所長）

日時 11月10日（土）13:30～15:45

場所 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 201号室

参加費 無料

先着 60名様（事前申込制）

### 【ひきこもり家族のつどい】

日時 毎月第3水曜日 13:30～15:30

平成30年 9月19日 10月17日

11月21日 12月19日

平成31年 1月16日 2月20日 3月20日

場所 和歌山県精神保健福祉センタープレイルーム

対象 ”ひきこもり” や 孤立の状態にある方  
ご家族

(3) 応募期間 平成30年9月14日（金）まで

(4) 応募のしかた 作品の裏に、氏名（ふりがな）、  
年齢（学年）、住所、学校名（勤務先）、電話番号を明記した用紙を貼った上、下記和歌山県精神  
保健福祉協会「ほっとする笑顔つながるこころの  
絵」あてご応募ください。

## 2 入賞者

最優秀賞 1名 優秀賞 2名 入選若干名

※入賞された方には、賞状および副賞

（図書カード）を贈呈。また、入賞された方には、  
10月下旬頃に文書にて連絡します。

## 3 表彰式

平成30年11月24日（土）に和歌山ビッグホ  
ールで開催する「こころのフェスタ2018※」に  
おいて表彰式及び入賞作品の展示をします。

## 4 その他

作品の著作権は主催者に帰属し、応募者の承諾を  
得ずに啓発用教材に使用することがあります。ご応募  
頂いた作品は、平成31年1月4日以降に和歌山  
県精神保健福祉センターまで取りに来ていただけれ  
ば返却いたします（要連絡）。また、入賞された方の  
氏名及び市町村名（在学中の方は学校名・学年）を  
発表します。予めご了承ください。個人情報につい  
ては適正に取り扱い、本来の目的以外には使用しま  
せん。



※こころのフェスタ2018は、ふれあい人権フェスタ2018・  
りいぶるフェスタ2018と共同開催致します。

## 開催報告

和歌山県精神保健福祉センターが開催した研修会等のご報告です。

### 【こころの集い 講演会】

**演題** 「この島で生まれて良かった この島で生んで良かった」  
～地域で働き、地域で暮らすために～

**講師** 伊志嶺博司（社会福祉法人みやこ福祉会理事長）

**とき** 平成 30 年 6 月 26 日（火）

**ところ** 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛



当日は、41名参加の中、伊志嶺理事長から人口が少なく離島で、みやこ福祉会設立に至るきっかけとなる「兄弟姉妹の会」の結成から始まり、平成 30 年 6 月にレストラン『アナダス』をオープンするまで次々と事業を拡大し、32 年間、障害者のため、地域の環境整備を精力的にすすめられたお話をお伺いしました。伊志嶺理事長が和歌山と同じような悪条件にも負けず、粘り強く、障害者、家族、スタッフ（支援者）一人一人を本当に大切にしていって取り組んでこられたことがよくわかるお話でした。参加者の多くから「熱意に感銘を受けました」という声が聴かれました。



### 【思春期セミナー】

**演題** 「高校教育の中での思春期の育ち」

**講師** 安河内敏氏（北星学園余市高等学校元校長）

**とき** 平成 30 年 7 月 30 日（月）

**ところ** 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 801



講演会では、安河内敏氏（北星学園余市高等学校元校長）が、現在の高等学校や高校生を取り巻く状況や北星学園余市高等学校の教育実践について話しました。その後、安河内氏、小野善郎当センター所長、石橋由季子氏（北星学園余市高等学校卒業生・麦の郷ハートフルハウス創）3名の対話形式で、石橋氏の北星学園余市高等学校での学びについての話がありました。参加者は、39名でした



## 自殺予防週間



### 9月10日は世界自殺予防デー・9月10日から9月16日は自殺予防週間です

9月10日は、「世界自殺予防デー」です。また、9月10日からの一週間を自殺予防に関する理解を深めていただくための「自殺予防週間」としています。

わが国の自殺者数は、平成 10 年以降連続して 3 万人前後の状態が続いていましたが、平成 22 年以降は減少を続けています。しかしながら、いまだ、毎年 2 万人を越える状況で、交通事故による死者数の 5 倍以上の人が自殺によって命を落としています。

平成 29 年における全国の自殺者数は 21,321 人（人口 10 万人対 16.7）、和歌山県では 201 人（人口 10 万人対 20.4）でした。（厚生労働省『地域における自殺の基礎資料』より）

### ○あなたにも出来る自殺予防のための行動

自殺の要因は一つではなく、社会構造・経済的要因等がからみあった複雑な問題が背景にあるといわれています。

自殺を未然に防ぐために、自分や周囲のこころの健康・いのちの大切さについて考えてみましょう。

#### 電話相談実施中

全国一斉こころの健康相談統一ダイヤルによる電話相談を、精神保健福祉センター内にある自殺対策情報センター「はあとライン」で受付しています。  
実施時間 午前 9 時～午後 5 時 45 分まで  
電話番号 073-424-1700

#### 〈気づき〉

家族や仲間の変化に気づいて、声をかける

#### 〈傾聴〉

本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける

#### 〈つなぎ〉

早めに専門家に相談するよう促す

#### 〈見守り〉

温かく寄り添いながら、じっくりと見守る



今年は、異常気象で、7月7日九州から始まり四国、中部地方へ15年に一度と言われる大雨特別警報が発令されました。そして、被災された方も多数の都道府県にまたがり、現在も支援が続いています。

もしも、和歌山県で災害が起こったとき・・・こころの健康を中心に和歌山県庁障害福祉課こころの健康推進班の大原主査にお話を伺いました。

(セ) 今年の夏は、全国的に災害が発生しています。和歌山県では、東南海、南海地震等にも備えて様々な対策がとられていますが、もしも、和歌山県で災害が起こったとき、どのような流れで支援が進んでいくのか、教えてください。

(大原) 和歌山県に津波警報が発表されたときや、県内で震度6弱以上の地震が発生したときなどに「災害対策本部」が設置されます。(図参照)「災害対策本部」の中に災害医療本部が設けられ、その中に「DPAT(ディパット)調整本部」が立ち上がります。「DPAT調整本部」では、EMIS(イ-ミ)等から情報収集と、障害福祉課を通じて被災地の保健所からの情報を併せて、DPAT活動拠点を決定し、被災地にDPAT先遣隊を派遣します。

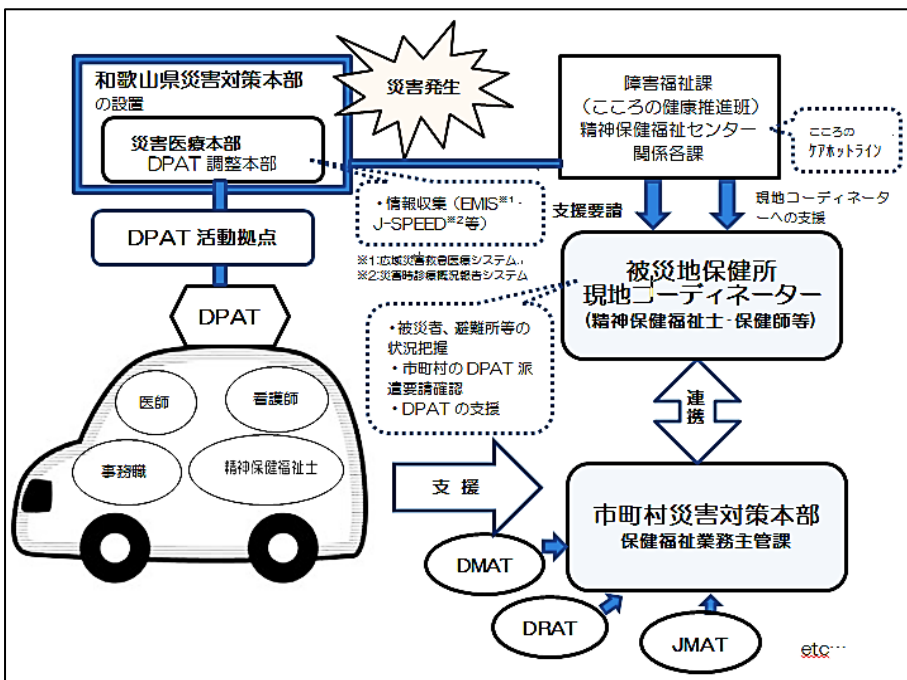


図 DPAT活動の流れ

(セ) DPAT先遣隊ってどんな役割をする方達なのか?

(大原) 基本的には、48時間以内に活動を開始します。精神保健指定医、看護師、精神保健福祉士と業務調整員の事務職の4人で構成しています。主な仕事は、情報収集やニーズアセスメント、被災地での精神科医療の提供や、被災した医療機関の専門的支援などです。入院中の患者避難の支援なども行います。

知っていますか?

DPAT(災害派遣精神医療チーム)

自然災害や事故、犯罪事件などの集団災害の後、被災地域に入り、精神医療及び精神保健活動の支援を行う専門的なチームです。

(セ) 幅広い、専門的な活動が必要なのですね。他の災害医療チームとの連携も重要になってきますね。DPATについて今後の方針を教えてください。

(大原) 障害福祉課では、DPATとして活躍していただける人材の養成や、DPAT等たくさんの支援団体が入ってくることを想定し、支援を受ける精神科医療機関や市町村、保健所の職員等を対象にした研修会を企画しています。みなさまにも参加していただきたいです。

災害への備えというのは、つつい後回しになってしまいがちですが、”忘災”ではなく”防災”を意識し、災害に備えていければと思います。

(セ) 和歌山県のDPAT隊は熊本の地震発災時も支援に行かれたとか。活躍の場が無いにこしたことはありませんが、「備えあれば憂いなし」今後とも充実に向けて頑張ってください。ありがとうございました。

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。  
今回は、和歌山県立高等看護学院 主査専任教員 水主 雅人さんです。

## はーとふるネットワーク



### ー看護師になられたきっかけは？

私が看護師を目指そうと思ったきっかけは母親の影響です。母は看護師をしており、幼い頃から母が看護師として自己研鑽する姿をみて育ってきました。そして、私自身も「人を助ける仕事をしたい。」という思いから看護師という職業に興味を持ちました。看護体験、ボランティアなどを通し、私の関わりで患者さんを笑顔にできたり、「ありがとう」という言葉をいただいたりしたときに、嬉しさと同時にやりがいも感じ、改めて看護師になりたいと思い、この職業を選びました。

### ー今の仕事の内容や取り組みについて教えてください。

私は、県立高等看護学院看護学科一部で看護教員をしています。看護教員とは、看護師養成機関で看護学生の教育を担当する教員のことです。私は、精神看護学を担当し、精神障害が日常生活に及ぼす影響や精神を障害された方への援助方法を講義や実習を通し指導しています。

### ー仕事上のやりがいや楽しみを教えてください。

県立高等看護学院で講義や実習を指導した学が本学院を卒業し、就職した病院で一人前の看護師として活躍している姿をみると、この仕事にやりがいを感じます。



### ー県立高等看護学院のPRをお願いします。

昭和25年5月に看護師の養成所として開学しました。昭和27年4月に県立高等看護学院と改称し、その後平成11年4月に華岡青洲ゆかりの地、那賀町（現在の紀の川市）に新築移転しました。

卒業生は2018年3月時点で約4,800人と和歌山県内で活躍しています。本学院は、看護の実践に必要な基礎的知識・技術・態度を習得し専門職として社会における保健医療福祉の変化に対応できる看護職を育成することを目指しています。

### ー今後の抱負を教えてください。

これまで以上に、学生が精神看護学の考え方や知識を十分身に付けることができるように講義や実習を工夫していきたいと思います。

### ー次の方のご紹介をお願いします。

今回は、県立こころの医療センターの和泉真理子さんを紹介させていただきます。  
和泉さん、よろしくお願いします。

### 編集後記

「今年の夏は特別暑かった！災害も・・・」と思いつつ、昨年の8月号のコメントを見てみると「今年の夏は、猛暑なうえに、豪雨により大きな災害が・・・」と、同じ様なコメントが。毎年、大変な災害があらこちらで起こっており、その都度対策が見直されています。あっては困ることですが、「くもかもしれない」「おこるかもしれない」という気持ちを忘れず、防災対策をしておかねばと改めて感じました。